

提出日： 2026 年 4 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	石橋悠人

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	・ケンブリッジ大学図書館所蔵のグリニッジ天文台アーカイブズの史料を網羅的に分析した。とくに電信による時報発信システムの開発と標準時の普及に関する史料を集中的に解読した。・国立公文書館において、イギリス海軍の海図作成・太平洋の測量活動に関する史料を調査した。・大英図書館と国立公文書館において、イギリス帝国の度量衡体制に関する史料の収集を行った。これらの収集した史料の読解を中心に研究活動を行った。また、スイス・フランスの博物館で、機械時計と時間に関する展示を調査した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	これまで取り組んできたイギリス帝国と時間の標準化に関する研究をまとめた。19世紀から20世紀初頭にかけて、インド、オーストラリア、南アフリカ、ニュージーランド、カナダなどの英領の主要な(自治)植民地において、時間の計測と伝達に関する様々な科学・技術が同時並行的に導入され、現地社会の時間のリズムや体制の変革が試みられたことを包括的に論じた単著をまとめた。つぎに、同時期に西洋諸国で隆盛した本初子午線と世界標準時の設定に関する論争を考察する研究を行った。その成果は、新書として刊行される予定である。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	研究活動を踏まえて、イギリス帝国においてヤード・ポンド法を基軸とする共通の度量衡体制が編成されたことがわかった。度量衡は人びとの交換の体系の基礎にあるものであり、その観点から帝国の拡大を検討することに少なからぬ意義があると思われる。そのため、今後の研究では、イギリスとその植民地における度量衡の改革を焦点に、帝国と科学の関係を考察したい。	